

第 22 回 キャリア支援研究会「経験学習-経験を学びに」事前課題

研究会では参加者同士の対話を中心に運営いたします。課題に対してご意見をご用意下さい。

課題 1 : 「自己 PR : 学生時代に頑張ったこと・学んだこと」の言語化につまづいている例と、その学生に対する働きかけ（支援方法）について具体例をご記入ください。経験に基づいた成功談でも構いません。アプローチに困った事例の場合には、右側の Q2 の欄は、何に困ったのか、どうして困ったのかについてご記入ください。研究会でヒントを見つけてください。

※より多くのご意見をお持ちの方はこの用紙を印刷・コピーしてお使い下さい。

Q1 どんな経験を持っている学生で、どんなことを書いていているか、困っている点は？	Q2 どのように考えて、どんなアプローチをするか。どんなアプローチをしたか。
<p>記入事例 1 学生時代に頑張ってきたことがなく、学業は最低限、部活やアルバイトもしてこなかった学生で、アピールできることがなくて困っている。本人は数日間ジョギングしたことを書いてきたが、苦し紛れ。</p>	<p>ジョギングの動議なども聞いてはみるが、そこにこだわらず大学時代の「時間」や「お金」を何に費やしてきたかを聞き、本人の興味関心領域を推定する。その後、丁寧に話を掘り下げて聞き、本人が成長していたり、なんらかの気づきを得たりしたエピソードを探していく。</p>
<p>記入事例 2 高校・大学と部活では、サッカーを続けてきていて、どちらもキャプテンを務めたことがある。高校では大会で勝つことを目標として所属しているメンバーが大半だったが、大学では、楽しむことが目的で所属している学生も多く、そこから生じる熱意の差から、練習の仕方など考え方の食い違いが生じチーム内の対立に苦心したことが書いてある。本人は、この経験を自己 PR に生かしたいが、上手にリーダーシップをとれず、チームをまとめられなかったことからどう表現したらよいか困っている。</p>	<p>本人は、がんばったけれど失敗体験として捉えている。失敗の中からこそ、学びがあるかもしれないし、今から気づくことがあるかもしれないので、掘り下げて行くことにする。勝つことへの熱意の薄いメンバーにどのような視点でどう関わったのか、その結果どうだったのか。関わり方は他になかったのか。楽しく試合や練習することと勝つことでは何が違うのか。チームを一つにするには勝つことを目標にする以外の方法はなかったのか。様々な視点を提供しながら一緒に考える。最終的に、これからリーダーとして活躍するチャンスがあるならばどんな視点でどんな関わり方をするのか聞くことで、本人の学びを引き出していく。</p>
<p>記入事例 3 「学生時代の 3 年間のアルバイトを通して忍耐力と責任感を身につけた。だから、どんな仕事でも責任感を持って最後までやり遂げます。」と書いてある。具体性に欠けるため説得力がない。本人にはその自覚があまりない。</p>	<p>責任感や忍耐力があることを伝えるには、その証拠となる素材が必要であると説明した上で、仕事の内容、仕事をする中での具体的な苦労や工夫など掘り下げて聞いた。その結果、学業や他のやりたいことなど、他の取組みとの時間のやりくり・優先順位、失敗経験からの期限の厳守の重要性について学びがあったことが分かった。しなくてはならないことを、他を犠牲にしても期日を守ってやり遂げる責任感として自己 PR を完成させた。</p>

--	--

課題 2 : 社会人に伝わる自己 PR 文を仕上げるにはどのような視点や関わり方が大切だと思いますか。ご自身のお考えをご記入ください。

--

